山口遺跡

発掘調査概要パンフレット

平成12年2月29日　日田市教育委員会発行

山口遺跡は日田市上諸留町（大字東有田字山口）にあり、平成9・10年度に市教委がほ場整備事業に先立って発掘調査を行いました。調査では竪穴住居や建物、溝、墓が発見されています。

まず、竪穴住居は今から約1300年前に掘られた古墳時代後期のもので、平面の形はほぼ四角形です。竪穴住居北側の壁にはカマド（竈）がつくられていて、カマドの中からは当時煮炊きなどに使っていた土器がたくさん出土しました。

次に、建物は大きく２つの時代のものがあります。一つは平安から鎌倉時代の建物で、約850年前に建てられたものです。

建物は調査区の中央に集中してみられ、柱穴の中から白磁碗の破片が出土しています。

もう一つは今から約300年前の江戸時代の建物で、主に調査区の東側と西側に集中してみられます。

また、今から約200年前の江戸時代中頃の墓が２つ発見されています。人骨は残っていませんでしたが、墓の中からは簪（かんざし）・煙管（きせる）の雁首（がんくび）・寛永通宝が出土しました。

これらの調査結果から、遺跡のある場所に長い間人々が生活していたことがわかり、特に江戸時代の建物や墓の発見は日田代官所（永山布政所）と森藩を結ぶ近世路を中心として栄えた村の姿がしのばれます。

調査地点周辺の航空写真

古墳時代の竪穴住居
平安～鎌倉時代の建物
江戸時代の建物
江戸時代の墓

空中写真

3号竪穴住居のカマド

2号竪穴住居

空中写真

1号江戸時代墓